

磐梯山



1888年 磐梯山大噴火 噴煙立ちのぼる火口付近



1888年(明治21年)、磐梯山は大規模な噴火を起こし、山体の一部が崩れ落ちて多くの岩なだれを発生させました。この災害によって周辺の村々は大きな被害を受けましたが、その一方で新しい湖沼群や地形が生まれ、今に残る独特の景観が形づくられました。当時の写真には、火口付近から立ちのぼる噴煙と、山の変貌を目の当たりにした人々の衝撃が記録されています。

現在、銅沼(あかぬま)から眺める磐梯山の火口付近は、荒々しい岩肌を残しつつも植生が回復し、四季折々の表情を見せています。噴火による破壊と、その後の自然の再生が織りなす姿は、火山と人の暮らしとの深いつながりを今に伝えています。磐梯山は磐梯朝日国立公園のシンボルのひとつとして、自然の営みとその力強さを私たちに語りかけています。

